松尾鉱山資料館だより

松尾鉱山資料館
TEL 78-2598

ホームページはこちら

ヤマの母の手で営まれた「つくし保育園」

週に一度の読み聞かせや折り紙遊びが始まり

松尾鉱山にあった「愛児会つくし保育園」の始まりは、昭和28(1953)年頃にさかのぼります。松尾鉱業㈱厚生課の女性社員が、事務所周辺の幼児を集会所に集め、週に一度、紙芝居の読み聞かせや折り紙をして遊ばせていたことがきっかけでした。「子供会」と呼ばれるようになるこの活動は各住宅地区に広がり、公立幼稚園設立を願う声が高まると、お母さんたちの奮闘が始まります。時間を見つけては会合を開き、旧松尾村役場に足繁く通って思いを訴えたほか、会社にも助けを求めると、当時の飛田忠英(ちゅうえい)厚生課長は知恵をしぼり、浴場用の石炭や薪を集会所でも使えるよう手配し「子供会」の活動を支えました。

就学前に保育を　－ 統一的な子供会が発足 －

財政事情などの課題のため、村立幼稚園の設立は叶いませんでしたが、32(1957)年、お母さんたちの手で統一的に運営する「子供会」を発足※。４カ所の集会所に分かれ、就学を控えた幼児が一年間、週３日の保育を受けられるようになりました。また、村からの助成で専任保育士を採用するなど、保育体制も整えられました。

子供会は、その後「愛児会つくし保育園」と改称。37(1962)年６月には、念願だった週６日、松尾鉱山小学校の旧校舎１カ所での全日制保育が実現します。しかし安い保育料と助成金だけでは運営が厳しく、お母さんたちは廃品回収のほか、山菜加工工場や食堂を開くと、その収益を充てて運営を支え続けました。

こうした懸命な努力が実を結び、42(1967)年４月に保育園は公立化。念願の「松尾村立緑ヶ丘保育所」へと生まれ変わりました。



子供会の発表会の舞台裏で活躍したお母さん達(昭和32年11月９日)

※ 発足時は360人が入園

小中学校の統合と連携 No.10

問い合わせ先　教育総務課(☎・内線1361)

松尾小学校の開校に向け準備を進めています

▶運動着のデザインを決定

９年４月に開校する松尾小学校の新しい運動着を選定するため、５月21日から６月17日にかけて、松尾地区内の各小学校と各保育所で、運動着の展示会を開きました。

展示した運動着の候補は、６種類で、保護者による投票の結果、右の運動着デザインに決定しました。



統合小学校の運動着

▶スクールバスのルートを検討しています

現在の松尾中学校のスクールバスルートを基本とし、新たに、「新田・立石線」のバスルートを追加する予定です。

12月ごろを目途に、対象となる家庭にスクールバス乗車場所についての調査を行い、登下校にかかる利便性の確保を図ります。

▶校章のデザインを決定

松尾小学校の校章デザインを、5月14日から6月30日までの期間で募集し、全国から43件の応募をいただきました。松尾地区小学校統合検討委員会や教育委員会による選考の結果、北野公一(こういち)さん(和歌山県在住)の、次の作品を校章(最優秀賞)とすることに決定しました。

New



松尾小学校の校章

岩手山と八幡平をイメージしたものに、松川と赤川の流れを２本の線で表し、松尾村の村花だった「さくら」の花びらを、統合の３校の数で示したものを組み合わせています。統合の子どもたちの繋がりを大切に、仲良く心豊かに、恵まれた自然に育まれた環境の下で、支え合い、元気いっぱい頑張る心をもって、大きく成長していく姿をイメージしました。

上部の岩手山を八幡平市の「八」を連想する図案で、地域に根付き、人々からも親しみを持って愛される校章に仕上げました。



最優秀賞作品をデザインした北野公一さん